

JAPIC NEWS

10 2006.
月号
(No.270)



CONTENTS

《巻頭言》

「医薬情報の行方」	2
興和株式会社 代表取締役社長 三輪 弘	

《お知らせ》

第1回IMIC・JAPIC合同セミナーのご案内	4
医療用医薬品集 更新情報メールサービス開始	5
「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2006年10月」10月末に発売	6
医学・薬学関係学会の開催情報が検索できます	7

《トピックス》

第126回薬事研究会を開催しました	8
-------------------------	---

《シリーズ》

東南アジアの医療事情(6) ネパール②	
古くて新しい二重構造をもつ保健衛生の現状	
JICAシニア海外ボランティア 土屋 自佑	9
《図書館だよりNo.196 / 新入会機関紹介》	12
《9月の情報提供一覧》	15

《 巻 頭 言 》



医薬情報の行方

興和株式会社 代表取締役社長

三輪 芳弘 (Miwa Yoshihiro)
(JAPIC 評議員)

情報という言葉は従来、「極秘情報」、「情報機関」などから連想されるように限られた世界で使われていました。それが研究機関、官庁、会社で広く使われるようになったのは、コンピューターのおかげです。そこで「情報化社会」などという言葉も出現して、社会のありようにまで影響を及ぼすことが認識されるようになりました。比較的最近のことと言っていいでしょう。しかしその当時、社会や人間のあり方をここまで変えるものとは考えられていませんでした。コンピューターを必要とし、使えるのは大きな組織でしかなかったからです。

その後コンピューターが通信技術と一体化したことにより、どこにいても巨大コンピューターを使えるようになりましたし、汎用化のおかげで個人もその恩恵にあずかれるようになりました。最近の子供は、辞書・事典の類を使わないし、存在すら知らない。知りたいことがあればネットで検索が常識となってしまいました。

この変化を革命と捉えて「第三の革命」と呼んだ専門家もいます。人類の歴史をたどると、農業革命と産業革命がこれに匹敵する社会の変革期であったということです。確かに人類は農業を実現することにより、狩猟・漁労の生活から開放されました。と同時に豊かな収穫をバックにして人口は増え、共同生活の必要性から部族国家が発生しました。また産業革命では、自然エネルギー以外のエネルギーを利用する手段を手にし、工場において機械設備による生産が始まり、人員を養成する学校、原料・製品、人員を運ぶ交通手段などが次々に誕生しました。それによる社会の変化は現在でも続いています。

今日の世界に生きる者は、このような「情報革命」が進行中という時代的背景の下で組織を運営することが運命付けられており、また個人的にも逃れられなくなっています。その上、国際化・

グローバル化も現実の環境として付き合っていくなくてはなりません。特に医薬品に関わる者にとって、それが国際流通商品であるがゆえに、情報革命と国際化・グローバル化は、避けて通れなくなっています。

これだけ情報が自由自在に扱えるようになると、大量の情報の流れの中で、情報処理の基本は忘れがちになってしまいます。製薬企業にとって重要な副作用情報を例にとると、臨床の場面で経験される症状の推移と副作用の見極めは、どこまで行っても医療関係者の個別的判断に頼らざるを得ません。だからこそ医療の場において発現した事象を副作用情報として切り取って「情報化」する段階の重要性に思いを致すべきなのです。また収集された情報は、評価後医療の専門家や生活者にとって役立ってこそ意味があるという、もう一つの基本を再度肝に銘じておきたいと思います。

日本医薬情報センターは、医薬品製造業の資本が自由化される前段階として昭和 47 年の財団設立当初から、情報と国際化をテーマとして日本の製薬企業の発展に寄与してこられました。また医薬品が最終的に患者さんの生命・健康に役立つという観点から、医療職はもとより、生活者を意識した業務に力を注いでおられることに敬意を表する次第です。

評議員の一人として、また日本医薬情報センターのサービスの利用者の一人として、今後ますます発展されることを祈念いたします。



Information

お知らせ

第1回 IMIC・JAPIC合同セミナーのご案内

この度、(財)国際医学情報センター(IMIC)と(財)日本医薬情報センター(JAPIC)は、共催で会員向けセミナーを開催することにいたしました。

本企画は、医学、薬学分野の財団である両財団が、会員の皆様へのサービス向上を検討していく中で生まれたものです。テーマを「最新テクノロジーと医療」と題し、今後の医療とテクノロジーをキーワードに魅力的な先生方にお話をお願いいたしました。今回の合同セミナーが両財団の会員の方々にとって、少しでもお役に立てることを願っております。

多数ご出席いただきますようご案内申し上げます。

「最新テクノロジーと医療」

～これからの医療、その可能性を巡って～

日 時 : 2006年12月5日(火) 13:00～17:00

会 場 : 野口英世記念会館 新宿区大京町26番地 TEL 03-3357-0742

(JR千駄ヶ谷駅より徒歩9分)

プログラム

13:00	受付開始	
13:30～14:30	「国産新型カプセル内視鏡の現状と展望」 慶應義塾大学医学部 消化器内科・内視鏡センター 緒方 晴彦 先生	
14:45～15:45	「患者さんのためのマイ電子カルテ」 東海大学医学部 基礎医学系 医学教育情報学 大櫛 陽一 先生	
16:00～17:00	「再生医療とアンチエイジング医学」 慶應義塾大学医学部 眼科学教室 坪田 一男 先生	

◇会員限定の企画ですので、ご参加は会員の方に限ります。＜入場無料＞◇

お申し込みは JAPIC ホームページ (<http://www.japic.or.jp/>) 掲載の所定の申込用紙にてお願いいたします。(定員になり次第締め切らせていただきます。)

医療用医薬品集 更新情報メールサービス開始

JAPIC「医療用医薬品集」2007は9月1日に発刊いたしました。

医療用医薬品集の更新データは年4回のCD-ROMと、毎月シールでの更新情報を提供しております（いずれも有料）が、2006年10月より毎月の更新情報を電子メールで案内し、Webサイトから更新本文データを入手できるサービスを開始いたします。

本サービスは、JAPIC「医療用医薬品集」2007のご購読者の皆様を対象とした無料のサービスで、毎月の更新情報リストと更新情報を公開するサービスサイトのURLを電子メールでお知らせいたします。このサービスサイトでは、毎月の最新更新情報リスト、過去の更新情報リスト、更新情報履歴一覧などをご覧いただくことができ、JAPIC「医療用医薬品集」2007の更新本文データをPDFファイルにて提供しておりますので、このサービスサイトにアクセスしていただき、更新情報の確認や医薬品集更新本文データPDFファイルのダウンロードなどにご利用ください。

また、iyakuSearch 医療用医薬品添付文書情報にリンクしておりますので、更新情報の医薬品名を使って検索し、添付文書を入手することも可能です。

情報配信先のメールアドレスなどの登録方法は、以下の申込フォームにご記入いただくか、以下のメールアドレスに必要事項（郵便番号、住所、氏名、所属機関、電話番号、FAX番号、メールアドレス）をお送りください。

なお、メールでご案内するサービスサイトのURLは、毎月変更されますので、ご注意ください。

申込先：iryu@japic.or.jp

申込フォーム URL：http://www.japic.or.jp/iryu.html



購読者

申込みフォームに、住所、氏名、電話番号、情報配信先のメールアドレスなどをご記入いただき、[送信]ボタンをクリックしてください。

JAPIC 財団法人日本医薬情報センター
Japan Pharmaceutical Information Center

JAPIC医療用医薬品集2007更新情報メールサービス登録フォーム

JAPIC医療用医薬品集2007が発刊されました。

JAPICでは、医療用医薬品集2007のご購読者の皆様を対象に、毎月の更新情報リストと最新更新情報公開サービスサイトのURLを電子メールでお知らせいたします。

このサービスサイトでは、毎月の最新更新情報リスト、過去の更新情報リスト、更新情報履歴一覧などご覧いただくことができ、医療用医薬品集の更新本文データをPDFファイルにて提供しておりますので、更新情報の確認、医療用医薬品集更新本文データPDFファイルのダウンロードなどにご利用ください。

サービス提供期間：2006年10月から2007年7月まで

以下の登録フォームに住所、氏名、電話番号、情報配信先のメールアドレスなどをご記入いただき、[送信]ボタンをクリックしてください。

*お客様の個人情報は、更新情報の配信のほか、当財団のご案内の送付等に使用させていただきます。これ以外の目的には使用いたしません。

※お申し込み必須項目は赤字です。必ずご入力ください。

氏名	姓	名	(全角)
氏名カナ	セイ	メイ	(全角カタカナ)
メールアドレス	(半角英数)		
住所区分	自宅		
会社名・機関名	(全角[英数は半角])		
部署名	(全角[英数は半角])		
郵便番号	(半角英数)		
都道府県	東京都		
市区町村	(全角)		
番地	〒100-0001東京都千代田区千代田1-1-1		
建物名・部屋番号	(全角[英数は半角])		
電話番号	(半角英数)		
FAX番号	(半角英数)		

送信 リセット

【申込みフォーム】（開発中）

本サービスのご案内は、医薬品集巻末の綴じ込みはがきにも掲載されておりますので、ご参照ください。

「JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版 2006 年 10 月」10 月末に発売！

皆様にご利用いただいている“JAPIC 医療用医薬品集インストール版”（CD-ROM）は、“**2006 年 10 月版**”より商品名を「JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版」に変更いたします。これは医療用医薬品情報のみならず、一般用医薬品情報も収録し最新医薬品情報を網羅するものです。ぜひご利用ください。

本 CD-ROM（Win・Mac 両対応）の仕様は次の通りです。

★収録データ

医療用医薬品データ：2006 年 10 月上旬（予定）までに JAPIC が入手した**医療用医薬品添付文書情報・薬剤識別コードデータ及び薬価データ**を収録

一般用医薬品データ：2006 年 3 月一般用医薬品調査に基づいたデータを収録

★搭載機能

自由語検索として医療用薬、一般用薬、その両方の同時検索機能及び（医療用薬）薬剤識別コード検索機能を搭載し、**添付文書本文情報**を表示します（**参考情報として医療用医薬品添加物データ表示機能**、**iyakuSearch 収載医療用薬添付文書 PDF のリンク・表示機能を搭載**）。

また、医療用医薬品本文内容を取り込んで**院内採用医薬品集**として編集でき、その編集内容を共有あるいは次版へ引き継ぐことができます。

→ JAPIC ホームページにて **YJ コードリストから採用品への一括登録ツール**を無償提供しております。こちらもご利用ください。

★価格・お申し込み

1 枚 15,000 円（税・送料込）、あるいはお得な年間セット（1・4・7・10 月版のセット）を 25,000 円（税・送料込）で提供いたします。また、複数台をお申込みの方は廉価で提供いたします。購入ご希望・お問い合わせは、事務局 業務・渉外担当（TEL：03-5466-1812、FAX：03-5466-1814）までご連絡下さい。



医学・薬学関係学会の開催情報が検索できます！

JAPIC 附属図書館では 10 年以上前から、日本国内で開催される医学・薬学関係の学会、研究会、シンポジウム、国際会議等の開催情報を把握しております。この情報をもとに学会、研究会等が開催時に発行する抄録集、プログラム等を収集しており、年間の収集数は 3,500 件を超す数となり、医薬品の有効性及び安全性確保のための重要な資料となっています。

この度、医学・薬学関係の学会、研究会、シンポジウム、国際会議等の開催予定情報を公開しました。どなたでも利用できますのでご活用ください。

検索方法

iyakuSearch トップ画面 <http://database.japic.or.jp/> の 学会開催情報、または
附属図書館蔵書検索 <http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm> の 学会開催情報検索
をクリックすると

医学・薬学関連学会開催情報検索 <http://www.libblabo.jp/igaku/igaku.htm>

が開き、下記の検索項目で検索できます。

検索項目：会議名・主催学会名等、会長名、事務局名(事務局の機関名)、会場名、
開催地(都道府県名)、開催年月日

* 検索結果一覧から学会作成の HP にリンクを張っています。

収載範囲：2004 年以降の開催(予定)情報、更新頻度は月 2 回。

情報源：JAPIC 附属図書館が所蔵する雑誌、新聞、インターネット、DM 等。

附属図書館

医学・薬学関連学会
開催情報検索

会議名、主催学会名等 例. 薬学会

☒ AND ☐ OR

※1項目で検索される場合は上段に入力してください。

会長名

事務局名

会場名

開催地: 都道府県名

開催年月日 年 月 日 から 年 月 日 まで

* 日本国内で開催される医学・薬学関連の学会、地方会、シンポジウム、国際会議等の開催情報です。
* JAPIC附属図書館で所蔵している雑誌をはじめ、業界誌、学会のHPなどから開催情報を収集しています。
* 開催日、会場などが急に変更される場合がありますので、出席される場合は開催事務局へご確認ください。

《お問い合わせ先》
JAPIC附属図書館 Tel 03-5466-1827 Fax 03-5466-1818 mail: tosho@japic.or.jp

Copyright© Japan Pharmaceutical Information Center. All Right Reserved [ホームページのご利用にあたって](#)

お問い合わせ先：JAPIC 附属図書館 Tel 03-5466-1827 mail: tosho@japic.or.jp

第 126 回薬事研究会を開催しました

去る 8 月 29 日に津田ホールにて、第 126 回薬事研究会を開催いたしました。

「医薬品販売制度改正について」と題して工藤俊明氏（厚生労働省医薬食品局・監視指導・麻薬対策課・危害情報管理専門官）からは制度改定に至った経緯、制度改定後の一般用医薬品のリスク分類について説明があった。新制度では、現行のリスクの程度にかかわらず情報提供については一律であったものが、リスクの程度に応じて 3 グループに分類し、情報提供を重点化することになる。また、対応する専門家として、第一類医薬品は薬剤師が、第二類医薬品、第三類医薬品は薬剤師又は登録販売者が対応できるようになる。

これらの改定は購入者の視点に立って、医薬品の適正な選択を行うことができるよう、医薬品販売に関わる環境整備が行われる。たとえば、薬局・薬店での陳列、医薬品のリスクに応じた専門家の種類、医薬品のリスクの程度に応じた外箱表示などが義務付けられるとのことである。

一方、実際の販売に当たる薬局・薬店の立場として、「薬事法改正に基づく薬局薬剤師の対応の考え方」と題して児玉 孝氏（（社）日本薬剤師会 副会長）にお話をいただいた。薬剤師会としては患者に対して医薬品の安全性を第一に提供することを会員薬局に勧めている。また、この機会にもう一度原点に戻り薬剤師法第一条および医薬分業の概念を再認識することが大切であると話された。更に日本大衆薬工業協会との連携強化により安全性の確保、スイッチ OTC 薬等の育成を図って行くこと、大学薬学部における一般用医薬品関連講座の開設等お願いしたいとのことであった。

今回は、一般用医薬品に関係する話題のため JAPIC 会員以外にも案内を差し上げたところ 100 名以上の会員以外の方の参加もありました。今後も多くの方々にご参加いただければと思っております。



津田ホール 会場

ネパール②



古くて新しい二重構造をもつ保健衛生の現状

土屋 自佑 (Tsuchiya Jiyu)

JICA シニア海外ボランティア

ネパールの町を歩いてよく目にするのは、HIV や家族計画キャンペーンの看板です。建物の壁に絵入りで大きく描かれているのですぐに分かります。(写真 1)

ネパールの乳児死亡率は 64 人/1000 人、出生時母体死亡率 44 人/1000 人と出産が未だに非常に危険な国です。そして 3 歳以下の子供の栄養不良率が 18%、5 歳以下の子供が下痢あるいは呼吸器感染で死亡するのは 33 人/1000 人です(2002 年)。

〈写真 1：予防接種キャンペーン〉



このような状況下で保健省は保健サービスと家族計画サービスの開発促進により、健康な労働力を創出し、貧困層の軽減を目標にした National Health Policy (1991)を公表しました。

村々ではヘルスキャンプが頻繁に行われ、国民への衛生教育活動が盛んです。写真 2はカトマンズの看護学校の学生が、絵や模型を使って村人に衛生教育を行っている風景です。避妊方法、出産時の危険性はもとより、トイレの使用推進、食事の栄養バランスなどを説明します。

首都カトマンズから 1km も離れれば農家にはもうトイレはありません。野原で排泄するために、感染症の拡大や寄生虫の危険、環境の汚染などが

問題となります。都市部の家にはトイレが付いていますが、いつも汚れています。御存知のようにトイレットペーパーではなく手で拭いて、その手を水で洗い、その水で汚物を流す方式です。

ネパールの食事は塩と油を大量に使った料理であるため、高血圧や高脂血症などの日本と同じ生活習慣病の人が多く見られます。女性が太ることは恥ずかしいことではなく、逆に甲斐性として見られます。民族衣装であるサリーはお腹が出ているほうが綺麗に見えます。台所もきちん

と整っているわけではありません。野菜も肉も床に座って調理をします。プロパンガスが都市部で普及してきていますが、農村部では未だに薪を使って調理をします。家の中にこもった煙は結膜炎の原因となります。未だに一般家庭の台所の汚水や残飯はそのまま外に撒き散らしています。

「お米はお百姓さんのいくつもの手を経て出来上がったものだから、残してはいけない」という教育を受けた私はそのことをネパール人に聞いてみたことがあります。

「食べ残したものは自分たちよりも貧しい人々や家畜が食べるから、残した方が良いのだ。」との返事でした。ヒンズー教の考えなののでしょうか。しかし、首都カトマンズには 200 万人の人々が暮らし、彼らの出すゴミの量の多さに自然の浄化力が追いつかなくなってきています。また、ゴミの種類もプラスチックなどの自然に帰らないものが増え、カトマンズはゴミの町と化しました。それでも、人々は平気でゴミを道路に捨てています。

＜写真 2：看護学生によるヘルスキャンプ＞

カトマンズに流れるバグマティ川は 30 年前には川底が見えるほどでしたが（30 年前にも筆者はネパールを訪れています）、今では茶色の水が流れる単なるドブ川です。上流にはパシュパティナートというヒンズー教の火葬場があり、焼いたお骨をこの川に流し、水浴をして体を清める聖なる川です。この下流で貧困層の子供たちは泳いだりしていますが、大丈夫なのでしょう



うか。彼らは無菌状態で育った子供たちと違い強い抵抗力を持っているのでしょうか。

抵抗力の無い私たち外国人はカトマンズの水は一度沸騰させてから飲みます。野菜も生では食べられません。人口が都市部に集中化しすぎて汚染された水が浄化されなくなってしまったからです。

カトマンズは車で溢れています。インドで使われなくなった中古車がネパールで走っています。排気ガス規制が始まる前の車です。ハンカチで口を覆って歩く人を多く見かけます。車の排気ガスで町は汚染され、喘息や呼吸器系疾患の患者が非常に多くなりました。

30 年前には考えられなかったことです。先進国の技術を、マイナス面を考えずに導入した結果なのではないのでしょうか。これはネパールだけの責任ではなく、私たちにもあるのではないかと思います。

山間部の人口は全体の 7%です。車の通る道から数日間歩いてたどり着く村がたくさんあります。そこには山間部の村特有の問題点があります。

病気になっても医師にかかることができないことです。丸 1 日掛けて辿り着いた医療機関に

は医師はいなく、満足な医療機器も揃っていません。結局、村の祈祷師にお願いするか、伝承の薬草を飲むしかありません。健康であれば本当に健康な暮らしができるのでしょうか。山間部の村にはまだ電気が来ていません。無論台所也没有ありません。調理は庭や部屋の中で行いますので、(写真 3) 先に述べたように結膜炎や呼吸器系疾患の人が非常に多いのです。

＜写真 3：一般的な農村のカマド＞



子供や女性に過酷な労働が強いられています。女性の寿命が男性よりも短いのがネパールの特徴です。過酷な労働のために 20 代の女性が日本の 40 代ぐらいに老けて見えます。ほとんどの女性が 10 代で結婚し、たくさんの子供を産みます。子供は労働力と考えると、避妊の知識も持ちません。

山間部の村は 30 年前とほとんど変わっていません。しかし、ソーラー発電が使われたり、都市部の情報が入ってきたり、少しずつ変わってきています。地方の村もやがてカトマンズと同じ道を辿るのでしょうか。

日本人と結婚したネパール人女性が日本で成功して、自分の生まれた村に病院を作りたいと相談を受けたことがあります。病院の建設はお金があればできますが、このようなところに来る医師がいるのでしょうか？ 志の高い医師が来てもそこで生活するとなると一か月も持たないでしょう。さらに、マオイストの問題で地方の治安が悪化しています。そのネパール人女性は病院建設をあきらめました。ネパールの保健衛生を改善するために、たくさんの国のたくさんの NGO(Non-Government Organization) が活動しています。

立派な業績を残した個人や団体はたくさんあります。しかし多くの援助は点で終わっています。彼らの注目した一か所に集中した援助で、そこからの広がりはありません。ネパール全体を考えた点から面へ広がる持続的な援助が必要と考えます。援助する側の自己満足で終わらせず、もっと NGO 間の連携を密にして、本当にネパールの将来を考えた計画的な援助が望まれます。

(続く)

＜新着資料案内 ー平成 18 年 8 月 8 日～平成 18 年 9 月 13 日受け入れ＞

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC 附属図書館（電話 03-5466-1827）までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

書名	著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
Compendium of pharmaceuticals and specialties (CPS) 2006—The Canadian Drug Reference for Health Professionals –	Canadian Pharmacists Association	Canadian Pharmacists Association	2006年	2,870p	¥41,120
カナダの医療用医薬品集。					
「第十五改正日本薬局方の制定等について」の訂正について(その2)					
	厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2006年 8月	3p	
平成17年度 エイズ医薬品等開発研究 重点研究報告書 国際研究ブランド事業 研究報告書					
	野崎 智義 他	ヒューマンサイエンス振興財団	2006年 7月	152p	
平成17年度厚生労働科学研究費補助金 萌芽の先端医療技術推進研究推進事業（ファーマコゲノミクス分野）事業報告書及び研究実績報告					
	内山 充	日本公定書協会	2006年 3月	36p	
平成17年度厚生労働科学研究費補助金 萌芽の先端医療技術推進研究推進事業（トキシコゲノミクス分野）事業報告書及び研究実績報告書					
	内山 充	日本公定書協会	2006年 3月	88p	
平成17年度厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究推進事業 事業報告書及び研究実績報告書					
	内山 充	日本公定書協会	2006年 3月	772p	
平成17年度 創薬等ヒューマンサイエンス研究 重点研究報告書					
	川西 徹 他	ヒューマンサイエンス振興財団	2006年 7月	649p	
平成17年度 創薬等ヒューマンサイエンス研究 国際共同研究事業研究報告書					
	小林 英司 他	ヒューマンサイエンス振興財団	2006年 7月	101p	
平成17年度 若手研究者奨励研究報告書					
	西田 基宏 他	ヒューマンサイエンス振興財団	2006年 7月	105p	

書名	著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
本当に患者の利益になるPOSと薬歴の活用					
	上町 亜希子	薬事日報社	2005年 8月	217p	¥2,520
一般用医薬品集 2007					
	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 8月	1,476p	¥9,450
医療用医薬品集 2007					
	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 9月	3,148p	¥13,650
医薬品・医療衛生用品価格表 [付録]メーカーリスト2006 平成18年度					
	薬事日報社	薬事日報社	2006年 8月	660p	¥9,660
「医薬品の一般的名称について」の訂正について					
	厚生労働省医薬食品局審査管理課長	厚生労働省医薬食品局	2006年 7月	1p	
医薬品の一般的名称について（通知）					
	厚生労働省医薬食品局審査管理課長	厚生労働省医薬食品局	2006年 7月	4p	
医薬品・食品相互作用ハンドブックー医療薬とOTC薬・サプリメント・飲食物					
	堀 美智子 編	じほう	2006年 7月	317p	¥3,200
医薬品添加物規格 2003 (Japanese Pharmaceutical Excipients) 追補					
	薬事日報社	薬事日報社	2006年 7月	62p	¥1,260
The Merck Manual of Diagnosis and Therapy. 18th ed.					
	Mark H. Beers Ed.	Merck & Co., Inc.	2006年 1月	3,023p	¥7,801
MRバブル崩壊時代に勝ち残る“7つの眼”医療制度改革とMR活動					
	川越 満 著	エルゼビア・ジャパン	2006年 8月	120p	¥1,995
最新 用字用語ブック 第5版					
	時事通信社 編	時事通信社	2006年 6月	735p	¥1,785
酸素療法ガイドライン					
	日本呼吸器学会肺生理専門委員会、日本呼吸器管理学会酸素療法ガイドライン作成委員会 編	日本呼吸器学会	2006年 7月	116p	¥3,675
新医薬品等の再審査結果 平成18年度（その1）について					
	厚生労働省医薬食品局長	厚生労働省医薬食品局	2006年 6月	2p	
新医薬品等の再審査結果 平成18年度（その2）について					
	厚生労働省医薬食品局長	厚生労働省医薬食品局	2006年 6月	2p	
糖尿病UP・DATE 賢島セミナー22 病態に即した管理・治療戦略 Up dateな糖尿病管理・治療へのナビゲーション					
	坂本 信夫 他編	医歯薬出版	2006年 9月	283p	¥3,780
Vademecum Internacional 2005 46 ed.					
	Medicom, S. A.	MediMedia Medicom, S. A.	2005年	2,336p	
スペインの医薬品集。会社名のアルファベット順に配列。スペイン語。					

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ*	定価
薬価基準点数早見表 平成18年8月版				
じほう	じほう	2006年 8月	957p	¥3,600
薬効別薬価基準 保険薬事典 平成18年8月版				
薬業研究会 編	じほう	2006年 8月	821p	¥4,400

新入会員機関

新たにご入会いただきました

(敬称略)

薬局・クリニック等 (G 会員) (9 月)

フエンネル薬局	永井産婦人科
平安堂薬局港町店	ませ調剤薬局
若葉台クリニック	西村内科循環器科クリニック
三澤医院	広面ファミリークリニック
金時薬局	やまもと内科クリニック
三条山下内科医院	前久保クリニック
愛聖クリニック	新井こどもクリニック
三丘温泉診療所	すわ内科皮ふ科
高山クリニック	さくら薬局
福井クリニック	藤谷クリニック
水本内科クリニック	谷浦クリニック
飯田薬局	緒方医院
まさき薬局	沼田整形外科
しらかわ薬局荒田店	深澤薬局
松尾クリニック	中山医院
よつば薬局	コスモス薬局
当真ハートクリニック	イノウエ薬局船宮店
小作駅前クリニック	たちばな薬局
西宮島調剤薬局	都北町薬局
博愛堂医院	瀧島医院
らくだ薬局	宮崎クリニック
松岡内科クリニック	黒沢薬局
三國医院	

+ 情報提供一覧

平成 18 年 9 月 1 日から 9 月 30 日の期間に提供しました情報は次の通りです。
 出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当
 (TEL.03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情 報 提 供 一 覧	発行日等
<出 版 物 等>	
1.「医薬関連情報」9月号	9月29日
2.「Regulations View」No.133	9月29日
3.「JAPIC NEWS」No.270	9月29日
4.JAPIC「医療用医薬品集」2007	9月1日
5.「JAPIC J」No.6	8月31日
<速報サービス>	
1.「医薬関連情報 速報 FAX サービス」No.551-554	毎 週
2.「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Q サービス)」	毎 週
3.「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.1298-1317	毎 日
5.「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.156-159	毎週月曜日
6.「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日
デ ータ ベ ース 一 覧	更 新 日
iyakuSearch < http://database.japic.or.jp/ >	
1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 学会演題情報	月 1 回
3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. 一般用医薬品添付文書情報	随 時
5. 規制措置情報	毎 日
6. 臨床試験情報	随 時
7. 日本の新薬	テストリリース中
<JIP e-InfoStream から提供> < https://e-infostream.com/ >	
1.「JAPICDOC 速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	月 1 回
2.「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回
3.「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	月 1 回
4.「MMPLAN (学会開催予定)」	月 1 回
5.「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	月 1 回
6.「NewPINS (添付文書情報)」(月 2 回更新)	月 2 回
7.「SHOUNIN (承認品目情報)」	月 1 回
<JST JDream II から提供> < http://pr.jst.go.jp/jdream2/ >	
「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回